

踊りの輪に加わる福島美少女図鑑の(左から)小原さん、鈴木さん、遠藤さん



東山盆踊り「民報の夕べ」

湯のまち 活気づく

やぐら囲み踊り流し

市民や宿泊客 夏の風情楽しむ

5年ぶりに復活した会津若松市東山温泉の東山盆踊り。「福島民報の夕べ」で幕を開けた1日から、湯のまちが活気づいている。多くの市民や宿泊客らが華やかなやぐらを囲み、夏の風情を楽しんでいる。

初日は東山芸妓(げいぎ)の冬華さん(おなじみ)の「愛しき日々」伊おりさんが「なりませぬ節」の舞を披露し、全体の踊り流しに入った。



「なりませぬ節」に合わせ、舞を披露する伊おりさん

東邦銀行は市内の営業店から約60人の社員が浴衣姿で参加したほか、ゲストに招かれた

福島美少女図鑑モデルの遠藤菜さん、鈴木想さん、小原あめりさんも踊りの輪に加わった。芸妓衆による「会津磐梯山」の調べに合わせ、ゆっくりと歩みを進めた。



会場に設けられた「民報ニュース」のブース

AICT(アイクト)コンソーシアムの海老原城一代表理事(アクセンチュア)、DMC aizuの遠藤昭二社長らも来賓で会場を訪れた。

福島民報社は昭和30年代の東山盆踊りの模様を紹介するブースを出展した。大型画面で「民報ニュース」を放映し、来場者が当時のにぎわいぶりを振り返っていた。

盆踊り会場周辺に屋台、キッチンカーが連日繰り出している。東山温泉観光協会の温泉街活性化推進委員会女子部が地元の店舗、団体と連携し、グルメや地酒、地ビールを提供している。